

●しきしまのあしあと

2009年「若者よ田舎を目指そうプロジェクト」受入

2010年「しきしま・ときめきプラン2010」策定

2015年「しきしま・ときめきプラン2015」策定

プラン推進に向けた自治会組織の再編

「しきしま暮らしの作法」策定

2020年「しきしま・ときめきプラン2020」策定

過疎地域自立活性化「総務大臣賞」受賞

2022年 拠点整備クラウドファンディング実施

2023年「しきしまの家」暫定オープン

「未来に向けた構造改革のための提言」策定

2024年「しきしまの家」グランドオープン



プラン2015公開討論会



2020年総務大臣賞受賞



2023年しきしまの家オープン式

私たちが描くしきしまの未来

それは、美しい田園風景のある里
それは、あるがままの自分で居られる里
それは、小さな生業が芽吹く里
それは、不安のない暮らしが続く里
それは、子どもたちの瞳が輝いている里
それは、お年寄りが笑顔で暮らす里
それは、しきしまを愛するすべての人々による、
新たな自治が育まれる里
「しきしまの家」は、その実現に向けて人々が
努力する場となり心の拠り所となる
(未来に向けた構造改革のための提言より)

しきしまの家

地域の絆が 都市とつながり 未来を拓く



しきしまの家(しきしまの家運営協議会)

住 所: 豊田市杉本町三斗成1-3

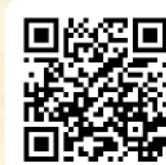
TEL/FAX: 0565-77-5733

営業時間: 9:00~17:00(木曜、年末年始休業)

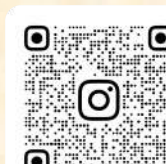
U R L : <https://shikishima.org>

E - m a I l : mail@shikishima.org

作成: 2024.04



Facebook



Instagram

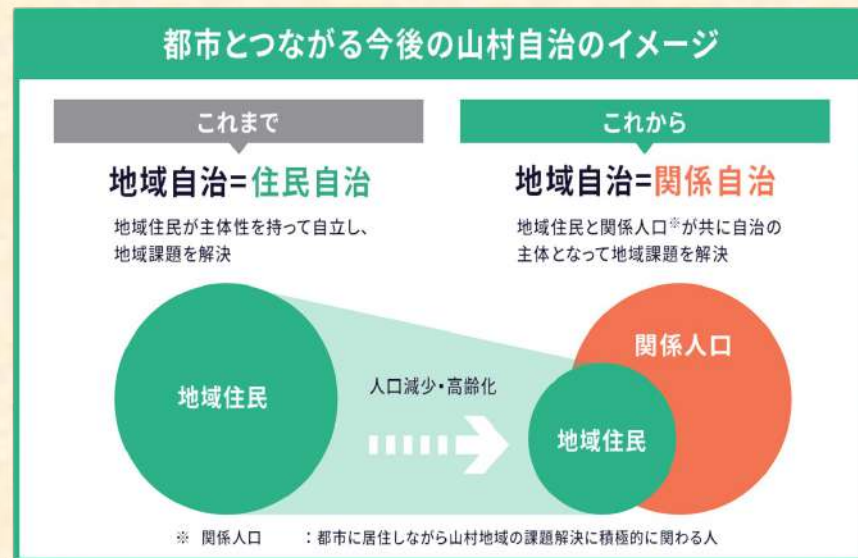




「しきしま・ときめきプラン2020」重点プロジェクトを推進するために、拠点となる施設、経営的な観点や手法で具体的に事業を実施する機能(地域運営組織)の必要性が浮き彫りになりました。そこで、空き物件となっていた旧杉本保育所を有効活用することとなり、ボランティアによるDIYや430人から寄せられた支援金により拠点施設が整備されました。そして、住民や関係人口が家族のようにつながり、わが家のように集える場所になって欲しいと「しきしまの家」と名付けられ、カフェ「ふらつとyui」を併設、2023年4月に開設、2024年4月グランドオープンしました。

●大切にしていること

- ①人口減少・超高齢社会を受け止めて前へ進む
- ②「おたがいさま」の地域共生社会を取り戻す
- ③次世代が今より幸せに暮らせる地域を残す
- ④美しい農村景観を守ることが地域をつなぐ鍵
- ⑤都市部の関係人口を地域自治の主体に加える



●困り事相談窓口

日常の困りごとは何でも相談できます。適切な支援者とマッチングして課題を解決しながら現代の「結」システムの構築を目指しています。



●農地保全相談窓口

農地に関する相談ができます。自ら管理できなくなる農地の増加が見込まれ、敷島自治区全域で連携して農地を保全し、美しい農村景観を次代につなぎます。



●カフェ「ふらつとyui」

我が家の居間のようなくつろぎ空間で、食事、軽食、コーヒーが楽しめます。家族のように支え合える地域は、ご飯を一緒に食べることから。



■自治区の地勢

豊田市の中山間地域に位置
 面積:21.7km²
 標高:約180m~530m

■集落数

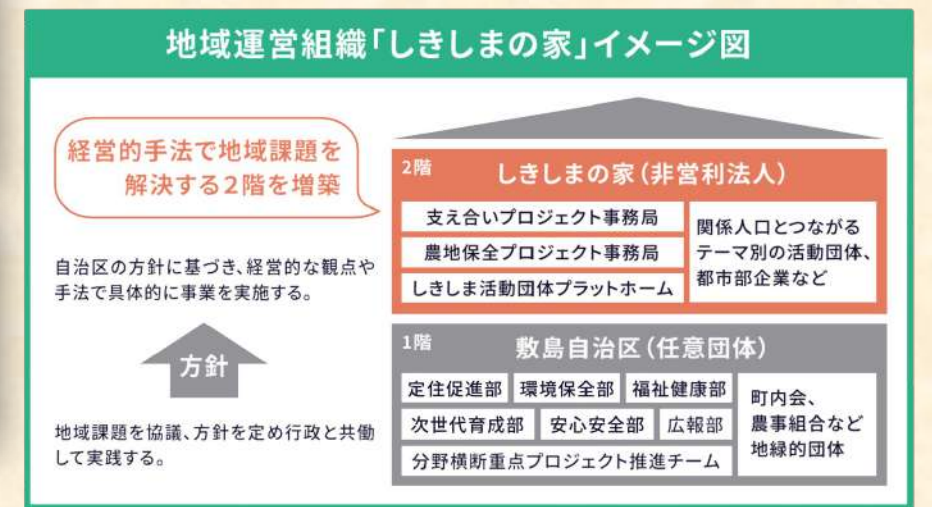
9集落(町内会)

■自治区の人口(R6.4.1)

人口:880人(住民基本台帳)
 世帯数:322世帯(自治区調べ)

■公共施設

旭中学校
 敷島小学校
 杉本こども園
 杉本郵便局
 杉本駐在所



●農村RMOとしての

「しきしまの家」

農村RMO(Region Management Organization)は、人口減少や高齢化で疲弊する集落機能を保全するため、農家とコミュニティが一体となって活動する組織です。しきしまの家運営協議会は、2023年度に農村RMO推進モデル形成支援事業の採択を受け、3か年度に渡って様々な実証事業に取り組んでいます。また、中山間地域等直接支払制度の10集落協定を「しきしま集落協定」に一本化する取組みの事務局も担っています。

分野	計画・実証	概要
農用地保全	・「地域計画」実現化戦略 ・草刈省力化共同利用実証 ・自給家族による農地保全	モデル集落における戦略草刈ロボット開発 米のCSAによる農地保全
地域資源活用	・高齢者生産野菜配達実証 ・RMO拠点しきしまの家	健康、資源活用、農地保全 旧保育所活用・整備
生活支援	・高齢者等の移動支援実証 ・支え合いシステム実証	運転代行、カーシェア 有償ボランティアシステム

